



ワンポイントアドバイス 第2回「同音異義語」

日常、わたしたちが作成したり他の人から受け取ったりする文書の中には、同音異義語による変換ミスがしばしば見られます。日本語検定3・4級には、「享受」と「教授」のように、パソコンで文を入力したときの単語の変換ミスを指摘する問題（誤っている言葉の正しい書き表し方を記入する）が出題されています。

◇「電話番号非通知の不信な電話がかかってきたら、すぐに連絡してください。」（3級問題より——正答率 43.7%）

→「不信」が「不審」となるのが正しいのですが、「不振」や「不心」とする解答も目立ちました。「不審者にご注意」などの掲示はあちこちで見かけますが、いざ書いてみると案外……

◇「多くの非正規雇用者が、劣悪な労働条件を感受しなければならない状況に陥っている。」（3級問題より——正答率 15.8%）

→「感受」が「甘受」となるのが正しいのですが、ここを指摘しても、「換受」「勸受」「完受」などの当て字を書いたり、他の言葉を誤りとして変えたりした解答も多くありました。

◇「専門家によれば、このままでは前知事の落選は必死とのことだ。」（4級問題より——正答率 43.7%）

→「必死」は「必至」が正しいのですが、この問題では、ここではなく、「専門家」を「専門家」とするなどの解答がかなりありました。みなさん「必死で」問題に取り組んでいたから……？

◇「道路の格調工事によって、駅周辺の景観は一変した。」（4級問題より——正答率 41.9%）

→「格調工事」の「格調」は「拡張」が正しく、「拡張工事」となるわけですが、「拡」を用いながら、「拡長」「拡調」としてしまう惜しい(?) 解答もありました。

このような問題では、同音異義語の知識はもちろん、語彙（ごい）の力も問われます。「教授」では間違いと思っても「享受」が出てこないのは、漢字を知らないのではなく「享受」が語彙に入っていないからだと考えられます。いくらパソコンを上手に操ることができても、語彙が不足しては、適切な文章は書けません。多くの現代人が「パソコン使いの

語彙不足」、「パソコン名人の言葉知らず」になってしまっているという憂慮すべき状況を
示しているのではないのでしょうか。

[一覧に戻る](#)